

研究部通信



発行: 令和3年8月23日
文責: 研究部
第1号「目標と評価規準①」

単元の目標と評価規準のルール～国語科～

多くの先生方が学習指導案の作成を経験されていると思います。作成する上での難しさとして、特に3観点の目標及び評価規準の文章表現が挙げられるようです。実際に、自治体や参考書の執筆者によって、細かなルールは異なっています。今後研究部として、様々な文献や熊本県が示している義務制(特別支援学校版がアップされていないため)における「学習指導案作成のポイント」等を基に、本校の大まかなルールを示したいと思います。

今回は国語科を取り上げ、右の表に示します。尚、他の教科については、整理でき次第、今後の研究部通信で発信し、最終的には全教科を一覧で示す予定です。(テンポの良さを目指します。)

教科	観点	知識及び技能 (知識・技能)	思考力・判断力・表現力 (思考・判断・表現)	学びに向かう力、人間性等 (主体的に学習に取り組む態度)
国語	目標	文末は「～できる」として示す。		
		(文例) 活動に登場する名詞や擬音語が示す物やイメージを知ることができる。	(文例) 活動に登場する名詞や擬音語が分かり、教員の働きかけに言葉や動作で応答することができる。	文末は「～しようとする」として示す。 ☆但し、当該学部、段階の目標ウ(「言葉がもつよさ～(以下略)」)を軸に設定すること。
	評価規準	文末は「～している」とする。	文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。 ☆熊本県が出している「指導案作成のポイント」では「『思考力・判断力・表現力』の指導事項の冒頭に指導する領域を「(領域名)において、」と示すこと」とされている。	文末は「～しようとしている」と示す。 ＜①粘り強さ②自らの学習の調整③他の2観点において重点とする内容④当該単元の具体的な言語活動＞の①から④の内容を全て含め、単元(や題材)の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。
		(文例) 読み聞かせや手遊びに目や耳を傾け、名詞や擬音語を音声や動作で模倣している。	(文例) ・登場する名詞や擬音が分かり、教員の問いに答え、言葉や動作で表現している。 (熊本県小学校の例) ・「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。	(文例) 活動に見通しをもち、登場する名詞や擬音語の一部または全部を言葉や動作で自ら表現しようとしている。

教育動向コーナー ～教師として知っておこう～ テーマ:「SDGs」



「SDGs(エスディージーズ)」は「持続可能な開発目標」と訳されます。2015年9月に国連サミットで採択された、世界のあらゆる人々が協働して解決に取り組むべき17の目標から構成されます。留意すべきは、その取組に関与することを、児童生徒にも求めているということです。

目標1～6…主として発展途上国にとっての社会的な目標

目標7～12…先進国にも関係する目標

目標13～15…自然環境に関する目標

目標16、17…すべてに共通して関わりのある目標

SDGsの特徴は先進国と発展途上国が一丸となって達成すべき目標であるという点であり、その達成期限は2030年とされています。

SDGsの授業に取り組むにあたって、まず考えるべきことは、どの教科・領域で実施するか、ということです。例えば、「国語」の説明文教材で扱ったり、「図画工作」や「美術」において、SDGsを意識した創作活動を展開することもできます。

また、児童生徒の社会参加活動を促進するにあたり、地域の協力は欠かせません。児童生徒と地域住民が協働的に社会参加活動、例えば環境保護活動や人権啓発活動、街づくり活動を展開することで、SDGsの目指す「誰一人として取り残さない社会の実現」の達成が期待されます。

先生方ならば、どんな教育活動の中にSDGsの視点を取り入れますか？

「つまみぐい」パワー



文献の一部抜粋から多くを学ぶコーナーだよ！

研究は大胆にシンプルに行う

研究授業を控えると、その単元や教材に対する教材研究には力が入る。結果として、「このことは学ばせたい」「あのことに気づかせたい」という思いが強まる。この思いが強くなればなるほど、授業失敗の原因となる。わずか一時間の授業に、あれもこれもと詰め込み過ぎてしまうのだ。そうすると、結局何がやりたかったのかが見えにくくなったり、子どもは何を学んだのか分からなくなったりする。

提案授業なのだから、今までにない提案をすることは必要だ。そこに授業者としてのチャレンジがある。チャレンジして上手くいかなくても、それは失敗とは言わない。大切なことは、その授業に明確な提案があること。提案が明確であれば、結果がその通りにならなくても仕方ない。

「教育科学 国語教育 2020年10月号より」一部抜粋

いかがでしょう。本校でも今後、研究授業の授業者という大役が控えている先生方が多くいらっしゃると思います。もちろん、心構えが必要なのは、授業者だけではありません。研究授業から多くの学びを生み出す役割を担っているのは、授業研究会に参加する先生方です。

「当たって砕けろ」ではありませんが、揉んで、叩いて、様々な視点から覗いて、加工して…をグループの仲間とともに繰り返す度に、キラキラとした「学び」があふれ出る提案授業になれば、最高ですね。

今回の記事の参考・引用文献

- ・「熊本県学習構想案作成のポイント」(熊本県教委 HP)
- ・「知的障害特別支援学校における「深い学び」の実現」(監修 横倉 久 東洋間出版)
- ・「最新教育動向2021」(明治図書)
- ・「教育科学 国語教育 2020年10月号」(明治図書)